

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277100968		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム 四葉の家 (1階、2階、3階)		
所在地	浜松市北区根洗町207-3		
自己評価作成日	平成24年2月4日	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277100968&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、様々な心身の力を秘めています。利用者の皆さんが家事・レクリエーション等、日々の暮らしの中に役割を持ち、主人公となる場面を多く展開し、生活行動障害緩和、認知障害者が陥りやすい混乱の軽減に努め、その人らしい生活のペースを構築しています。天気の良い日の近隣の散歩は四季折々の風景が五感を刺激し、出会う地域の皆様は笑顔で接して下さいます。神社の祭り参加・草取りは外に開かれた生活となっています。一人一人の利用者に合わせ、そっと寄り添い、さりげなく手助けし、ゆったりと自由にその人らしく生活していただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には住宅が少ないが、近所にある神社の役員や地域の福祉会が運営推進会議に参加してくれているなど、地域とのつきあいに事業所の努力の跡が見える。また、事業所内では利用者が元気に往来していて、それぞれの意思表示とともに明瞭な発語が飛び交っていることに驚かされる。職員手づくりの食事もやや盛りが多い感がある量を完食していて、生きる意欲が全体に漲り、大変喜ばしく感じるとともに日頃の職員の関わりの深さが受け止められた。昨年と比較するとややADLが下がった感が否めないが、それとともに職員も成長していることもその対応の様から伝わり、難易度の高さとともにスキルアップしてゆける事業所であることをあらためて確認した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかかわりを持って暮らし続けられるよう努力している。	神社の草取りや掃除を申し出たり、福祉会にコンタクトをとるなど、理念の実現に向けた事業所の地道な努力がみられる。また、職員も散歩中の会話を絶好の機会としていて、声掛けから来訪につながった例もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は毎日の散歩コースで近隣の方との立ち話もあり野菜をいただいたりする祭典等の行事には積極的に参加している。自治会に加入している。	散歩では畑仕事のひとと話をしたり、近所の神社での催しものには必ず出掛けていて、事業所の理念にもある「地域の人たちと関わり合いをもって生活する」ことを旨とした取り組みをしている。また、事業所の働きがけがきっかけとなり、福祉会のボランティア訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に、認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価など結果報告し内容改善を話し合いサービス向上に活かしている。	利用者だけでなく参加者それぞれの想いや意見を反映していて、運営推進会議で昔懐かしい地域のビデオを観賞することもあった。参加者も福祉会や神社役員など多様で、地域の意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月一回来設し相談意見など話あっている。事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には市職員、包括、介護相談員の参加を得ていて、顔なじみの関係にある。ただし、市や包括とのやりとりは郵便や電話もあり、会議以外では直接顔を合わせる機会は多くはない。また、市が開催する研修会には必ず参加し、情報の共有化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり、玄関から外に行かれるときはさりげなく声をかけたり、後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	「年に1回以上」をめやすに外部研修に参加していて、また日々現場で管理者が気づいた点を指導している。一時性、切迫性、代替性に基づく書面も備えていて、利用者の安全を最優先する場合には適正運用している。また、ユニットのドアには「お出かけの際には職員に声をかけてくださいね」とあり、普段から施錠の習慣がないことも視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり、理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づいてゆっくり説明し疑問点などあれば説明し理解納得したうえで後日契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者家族の意見には耳を傾けているようにしている。運営推進会議で意見要望など聞く機会にしているそれを運営に反映させている。	電話やたよりを通じて日頃の様子が伝わるようにしているほか、衣替えなどお願い事をする事で家族の来訪を促して、会話をもつ機会をつくっている。少ないという家族でも月1回の訪問があることから事業所の努力が視える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンス等で話し合っている。個別に話さく。	様子に変化のある職員には管理者から声を掛け、個人面談するようにしている。業務改善について発言することが日頃から定着して、職員同士もお互いの意見を尊重し受け入れることができているという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画している。法人の研修には全員受ける機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している他のグループホームと交流の機会に意見交換しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子をみながら、不安になっていないか、困っている様子はないか、声掛けを多くするよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族ともよく話し合い、お互いに情報交換し、理解しあえるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の様子を聞かせて頂き、必要とされる支援をするよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等一緒にできるよう工夫し、お話ししながらいろいろ教えていただいたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望を聞き、本人の現在の様子を伝えながら一緒に支えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望があれば電話をかけます。友人知人が訪ねてくれる方もいます。	家族だけでなく、友人や知り合いの訪問も受け入れている。また、「電話を掛けたい」「手紙を出したい」という利用者もいて、職員が手伝っている。新聞購読や読書、将棋、針仕事など在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間に職員も一緒に入り話題を提供し、利用者同士が話しやすいように働きかけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へお見舞いに行ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中からのような希望を持っているのか聞くようにしています。表情などから察しています。	利用者の元気にも繋がると考えていて会話をもつ機会を増やしており、多くはそこから新たな気づきを得ている。また、職員からアプローチすることで(過去におこなっていたかも知れないが)新たなことにチャレンジできる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり、ご家族や面会に来られた方から情報を得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックしています。どのように過ごしたいのか、何ができるのかを考え把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望を聞き実現できるよう計画を立てています。	モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にファイルがあり、個別のサービス記録と観察記録記入があり、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援には対応できるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのお祭りに参加したり、消防訓練をし、利用者が安全で楽しく暮らせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医に受診又は往診を受けています。体調に変化があるときはすぐに対応していただき、家族にはその結果を伝えています。	2つの協力医があり、月1回の往診がある。受診はほぼ月1回で不定期となっているが、訪問看護が週2回来訪していて、医療連携体制が整っている。また、緊急時に持ち出す情報も「医療看護相談記録」に挟み込まれていて、すみやかに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気づきを書きとめ、週二回の訪問看護師来設時に伝えて相談し、助言を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側に情報を提供し、職員がときどきお見舞いに行き、病状などの情報を得て、退院に向けた支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に主治医に相談し、家族とも連絡を取り合い、相談しながら方針を決めています。	2つの協力医のうち1ヶ所からは看取り対応はできないと言われており、また職員体制からみても看取りに取り組むのは難しいと考えている。医療行為が必要になった場合は、病院などほか施設への手続きを支援していて、家族にも事業所の考えを理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを職員がわかるように貼っています。また他ユニットの職員も協力対応できるようになっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練以外にも行っています。自治会の方や近隣の方に協力を求めています。月一回の防災訓練も行うようにしています。	平成22年度の外部評価の目標であった地域の皆さんの参加が叶っていて、消防署の指導の下行えている。また、利用者職員のみで取り組む訓練は毎月おこなうようにしており、繰り返しおこなうことで身近なものになっている。	テレビなど大きな家具を固定するなど、落下物対応に取り組むことを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生きてきた人生や人格を認め尊重し、その人の持っている誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めています。	自治会長を長年やっていた利用者にユニット内では「自治会長」と呼びかけるなど、本人がして欲しいことは工夫して取り組んでいる。また、利用者の前で業務連絡は極力避けていて、どうしても必要な場合は隠語を使ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意志を表す時にはよく聞きなるべく意向に沿うようにしています。意志をうまく伝えられない方には表情や態度を観察し、何をしたいのか汲み取り自己決定ができるよう質問しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ、どのように過ごしたいかという希望に沿えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるように支援しています。衣類など一緒に買いに行っています。希望の美容院に出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に会話しながら、食事の準備盛り付けなどします。	職員が手作りし、食事と一緒にっており、和やかな雰囲気の中で食事ができている。食べたいものを尋ねると答えが返ってくる人ばかりなので、利用者意見を取り入れたメニューづくりができている。おはぎなど季節の行事食は利用者も参加してつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食の栄養バランスは業者のほうで取っています。食事量や水分量を確実に摂取できるように声掛けしています。個人記録に摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしています。自分でできることはなるべくしていただき、できないところは介助しています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握し、なるべく排泄の失敗がないよう支援しています。	チェックシートをつけていて、自立の利用者も記録に協力してくれる。パルーン使用の1名のみオムツをつけているが、ほかは紙パン・布パンである。「なるべくトイレ」という方針のもと、職員は利用者をよくみるよう努め、声掛けによる誘導をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに取るよう声掛けをしたり、運動の声掛けをしています。乳製品などのおやつにしたり工夫をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日時間帯に関係なく利用者の希望にあわせています。。また一人でゆっくりと入りたい方には一人でゆっくり入って頂けるよう支援しています。	3つのユニットのうちいずれかで必ず毎日湯をはっていて、入りたい人は毎日入浴できる。ただし、時間帯は職員人数が多い午後に限られ、安全を確保している。歌を唄ったり、職員と会話をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて居室で休んだり、就寝時間起床時間もそれぞれの方に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理票に記入し理解し、服薬の支援と症状の変化を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれができること、得意とすることを役割にしたり、趣味楽しみごとができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力で外出したり、利用者の希望を把握し車で買い物やドライブ、地域の方の協力で喫茶店や飲食店に出掛けています。	散歩やドライブは日常的にあり、また時折近所の喫茶店に皆で出掛けしている。消耗品の買い出しなど職員が外出する時は「一緒に出掛けませんか」と声掛けすることになっていて、利用者の外出機会を増やしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により自分でお金(小銭)を所持し買い物に同行しています。力に応じて支払いができるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はお話ができるところまでは職員がしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン、窓、よしずを閉め配慮しています。	置の部屋にテレビがあり、食事をするテーブルと椅子が在る部屋と空間が明確に分かれていることに特徴がある。食事をする場所とくつろぐ場所がそれぞれあることで、利用者が目的をもって移動しているように受け止められた。コンタクトポイントを意識して清掃していることが視われ、5Sも浸透している。観葉植物が置かれ、生活を楽しむことにも配慮が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間は座敷で横になれたり、ソファも置いてあります。玄関にはベンチを置き思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた机や椅子筆筒を置いたりテレビを置いたり、花や写真を飾ったりしています。	パソコンやオーディオ機器を楽しんでいることが視えたり、趣味のものがおかれていたりなどして、思い思いの部屋づくりができていることを視認した。居室は過ごしやすそうな印象であるが、大半の利用者が共用空間で皆と一緒に時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場、居室に手すりをつけフローリングにしています。トイレがわかるように大きな字で書いてあったり、表札を大きくしている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかかわりを持って暮らし続けられるよう努力している。	神社の草取りや掃除を申し出たり、福祉会にコンタクトをとるなど、理念の実現に向けた事業所の地道な努力がみられる。また、職員も散歩中の会話を絶好の機会としていて、声掛けから来訪につながった例もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は毎日の散歩コースで近隣の方との立ち話もあり野菜をいただいたりする祭典等の行事には積極的に参加している。自治会に加入している。	散歩では畑仕事の人と話をしたり、近所の神社での催しものには必ず出掛けていて、事業所の理念にもある「地域の人たちと関わり合いをもって生活する」ことを旨とした取り組みをしている。また、事業所の働きがけがきっかけとなり、福祉会のボランティア訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に、認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価など結果報告し内容改善を話し合いサービス向上に活かしてる。	利用者だけでなく参加者それぞれの想いや意見を反映していて、運営推進会議で昔懐かしい地域のビデオを觀賞することもあった。参加者も福祉会や神社役員など多様で、地域の意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月一回来設し相談意見など話あっている。事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には市職員、包括、介護相談員の参加を得ていて、顔なじみの関係にある。ただし、市や包括とのやりとりは郵便や電話もあり、会議以外では直接顔を合わせる機会は多くはない。また、市が開催する研修会には必ず参加し、情報の共有化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり、玄関から外に行かれるときはさりげなく声をかけたり、後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	「年に1回以上」をめやすに外部研修に参加していて、また日々現場で管理者が気づいた点を指導している。一時性、切迫性、代替性に基づく書面も備えていて、利用者の安全を最優先する場合には適正運用している。また、ユニットのドアには「お出かけの際には職員に声をかけてくださいね」とあり、普段から施錠の習慣がないことも視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり、理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づいてゆっくり説明し疑問点などあれば説明し理解納得したうえで後日契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者家族の意見には耳を傾けているようにしている。運営推進会議で意見要望など聞く機会にしているそれを運営に反映させている。	電話やたよりを通じて日頃の様子が伝わるようにしているほか、衣替えなどお願いをすることで家族の来訪を促して、会話をもつ機会をつくっている。少ないという家族でも月1回の訪問があることから事業所の努力が視える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンス等で話し合っている。個別に話さく。	様子に変化のある職員には管理者から声を掛け、個人面談するようにしている。業務改善について発言することが日頃から定着していて、職員同士もお互いの意見を尊重し受け入れることができているという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画している。法人の研修には全員受ける機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している他のグループホームと交流の機会に意見交換しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困ってる事不安な事要望などよく聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い理解しあえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の様子を聞かせて頂き、必要とされる支援をしていきたいと努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の生活の様子を教えて頂いたり、得意分野で力が発揮できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を知らせたり、以前の様子を聞いたり、一緒に支援できるよう協力しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒になじみの場所に出掛けたり、電話でお話ししたりすることを支援しています。	家族だけでなく、友人や知り合いの訪問も受け入れている。また、「電話を掛けたい」「手紙を出したい」という利用者もいて、職員が手伝っている。新聞購読や読書、将棋、針仕事など在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やゲーム等と一緒に参加して頂きながら関わりができるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙、電話を頂いたり、施設に立ち寄っていただき丁寧に対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとりつつ、ご本人の希望、意向をお聞きしています。	利用者の元気にも繋がると考えていて会話をもつ機会を増やしており、多くはそこから新たな気づきを得ている。また、職員からアプローチすることで(過去におこなっていたかも知れないが)新たなことにチャレンジできる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時家族に記録していただき、さらにご家族ご本人に聞く機会を持っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報を密にして、毎日カンファレンスを行い現状を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のカンファレンス、モニタリング本人の希望現状を家族に伝え、家族の意向を反映した計画を作成している。	モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録があり、カンファレンス等で情報を共有し、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	好みの美容院へ行ったり、要望のあるお店に行けるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の訪問や移動図書館の利用、神社の祭りに参加できるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期検診と往診、変化あれば家族に報告、必要に応じ他科受診を紹介して下さいます。	2つの協力医があり、月1回の往診がある。受診はほぼ月1回で不定期となっているが、訪問看護が週2回来訪して、医療連携体制が整っている。また、緊急時に持ち出す情報も「医療看護相談記録」に挟み込まれていて、すみやかに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週二回訪問看護師来設。電話での相談もしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の日頃の情報を伝え、見舞いもしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・医師と相談しチームでできるだけ支援し、それ以上支援不可能な時は再度相談し検討していくようにしています。	2つの協力医のうち1ヶ所からは看取り対応はできないと言われており、また職員体制からみても看取りに取り組むのは難しいと考えている。医療行為が必要になった場合は、病院などほか施設への手続きを支援していて、家族にも事業所の考えを理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルが備えてあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中時・夜間時を想定し防災訓練を行っています。地域の方にも参加していただいています。	平成22年度の外部評価の目標であった地域の皆さんの参加が叶っていて、消防署の指導の下行っている。また、利用者職員のみで取り組む訓練は毎月おこなうようにしており、繰り返しおこなうことで身近なものになっている。	テレビなど大きな家具を固定するなど、落下物対応に取り組むことを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生きてきた人生や人格を認め尊重し、その人の持っている誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めています。	自治会長を長年やっていた利用者にユニット内では「自治会長」と呼びかけるなど、本人がして欲しいことは工夫して取り組んでいる。また、利用者の前で業務連絡は極力避けていて、どうしても必要な場合は隠語を使ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意志を表す時にはよく聞きなるべく意向に沿うようにしています。意志をうまく伝えられない方には表情や態度を観察し、何をしたいのか汲み取り自己決定ができるよう質問しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ、どのように過ごしたいかという希望に沿えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き好きな服装ができるよう努めています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片づけをしています。日曜日には一緒に作っています。	職員が手作りし、食事と一緒にっており、和やかな雰囲気の中で食事ができている。食べたいものを尋ねると答えが返ってくる人ばかりなので、利用者意見を取り入れたメニューづくりができている。おはぎなど季節の行事食は利用者も参加してつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて普通食・粥食・刻みなどにしています。個人記録に摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後の口腔ケアをしています。自分のできる範囲までしていただき、できないところは介助しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録し、排泄パターンを把握し、声掛け誘導しています。	チェックシートをつけていて、自立の利用者も記録に協力してくれる。パルーン使用の1名のみオムツをつけているが、ほかは紙パン・布パンである。「なるべくトイレで」という方針のもと、職員は利用者をよくみるよう努め、声掛けによる誘導をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、牛乳飲用、散歩等の運動をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調を把握し、温度長湯に配慮し、毎日入浴されています。	3つのユニットのうちいずれかで必ず毎日湯をはっていて、入りたい人は毎日入浴できる。ただし、時間帯は職員人数が多い午後に限られ、安全を確保している。歌を唄ったり、職員と会話をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望体調を配慮し休息されています。寝具の清潔、室温、照明などに気を配っています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読み、薬管理表に記録し、状態の変化により主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事分担、歌、将棋、習字、折り紙等楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物、季節折々の行事(花見・紅葉狩り等)自宅へ外泊、祭り参加等支援しています。	散歩やドライブは日常的にあり、また時折近所の喫茶店に皆で出掛けしている。消耗品の買い出しなど職員が外出する時は「一緒に出掛けませんか」と声掛けすることになっていて、利用者の外出機会を増やしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行き、できる方には支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、写真を貼ったり、季節が感じられる本を借りたりしています。	置の部屋にテレビがあり、食事をするテーブルと椅子が在る部屋と空間が明確に分かれていることに特徴がある。食事をする場所とくつろぐ場所がそれぞれあることで、利用者が目的をもって移動しているように受け止められた。コンタクトポイントを意識して清掃していることが視われ、5Sも浸透している。観葉植物が置かれ、生活を楽しむことにも配慮が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間でテレビを見たり気の合う人とお話ししたり、好きな事をしたり、居室で一人で過ごしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れたものを使用していただき、好みのものを活かし居心地良く過ごせるよう工夫しています。	パソコンやオーディオ機器を楽しんでいることが視えたり、趣味のものがおかれていたりなどして、思い思いの部屋づくりができていることを視認した。居室は過ごしやすそうな印象であるが、大半の利用者が共用空間で皆と一緒に時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやわかることはなるべくしていただき、わからないことは、声掛けし一緒に行動することで、混乱や失敗を防げるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとずき職員全員で地域の一員としてかかわりを持って暮らし続けられるよう努力している。	神社の草取りや掃除を申し出たり、福祉会にコンタクトをとるなど、理念の実現に向けた事業所の地道な努力がみられる。また、職員も散歩中の会話を絶好の機会としていて、声掛けから来訪につながった例もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所は毎日の散歩コースで近隣の方との立ち話もあり野菜をいただいたりする祭典等の行事には積極的に参加している。自治会に加入している。	散歩では畑仕事の人と話をしたり、近所の神社での催しものには必ず出掛けていて、事業所の理念にもある「地域の人たちと関わり合いをもって生活する」ことを旨とした取り組みをしている。また、事業所の働きがけがきっかけとなり、福祉会のボランティア訪問もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生に、認知症の理解をしていただく為体験学習の受け入れをした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価など結果報告し内容改善を話し合いサービス向上に活かしている。	利用者だけでなく参加者それぞれの想いや意見を反映していて、運営推進会議で昔懐かしい地域のビデオを觀賞することもあった。参加者も福祉会や神社役員など多様で、地域の意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月一回来設し相談意見など話あっている。事業者連絡協議会への参加。	運営推進会議には市職員、包括、介護相談員の参加を得ていて、顔なじみの関係にある。ただし、市や包括とのやりとりは郵便や電話もあり、会議以外では直接顔を合わせる機会は多くはない。また、市が開催する研修会には必ず参加し、情報の共有化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	朝礼研修で学ぶ機会があり、玄関から外に行かれるときはさりげなく声をかけたり、後ろからついていき見守りしている。家族にも身体拘束をしないケアに取り組んでいることを理解していただいている。	「年に1回以上」をめやすに外部研修に参加していて、また日々現場で管理者が気づいた点を指導している。一時性、切迫性、代替性に基づく書面も備えていて、利用者の安全を最優先する場合には適正運用している。また、ユニットのドアには「お出かけの際には職員に声をかけてくださいね」とあり、普段から施錠の習慣がないことも視認した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼研修で学ぶ機会があり、理解し虐待防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に基づいてゆっくり説明し疑問点などあれば説明し理解納得したうえで後日契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者家族の意見には耳を傾けているようにしている。運営推進会議で意見要望など聞く機会にしているそれを運営に反映させている。	電話やたよりを通じて日頃の様子が伝わるようにしているほか、衣替えなどお願いをすることで家族の来訪を促して、会話をもつ機会をつくっている。少ないという家族でも月1回の訪問があることから事業所の努力が視える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンス等で話し合っている。個別に話さく。	様子に変化のある職員には管理者から声を掛け、個人面談するようにしている。業務改善について発言することが日頃から定着して、職員同士もお互いの意見を尊重し受け入れることができているという。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の悩み、やりがい等聞き努力した成果が見られるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に研修に行けるように計画している。法人の研修には全員受ける機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡協議会に参加している他のグループホームと交流の機会に意見交換しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	様子を観察しながら、声掛けもなるべく多くし、早く慣れて安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に四葉の家を見て頂き、家族の話をよく聞き、対応の方法などもお話し納得していただくよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要とする支援を行い、徐々に他の支援も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に歌を歌い楽しんだり、お話したり、一緒に家事仕事をしたり、昔のいろいろな事を教えていただいたりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来設時には、最近の生活ぶりなど報告したり、以前のお話を聞いたりしています。また必要があれば受診の付き添いをお願いしたりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と馴染みの場所に出掛けたり、電話で話したりすることを支援しています。	家族だけでなく、友人や知り合いの訪問も受け入れている。また、「電話を掛けたい」「手紙を出したい」という利用者もいて、職員が手伝っている。新聞購読や読書、将棋、針仕事など在宅時の趣味を続けている人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一緒に楽しい事をしたりすることで、関わり合いが深まるよう支援に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院などの場合、時々会いに行った方もいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族本人から希望を聞いたり日々の様子を観察しながら、本人本位に職員で話し合っています。	利用者の元気にも繋がると考えていて会話をもつ機会を増やしており、多くはそこから新たな気づきを得ている。また、職員からアプローチすることで(過去におこなっていたかも知れないが)新たなことにチャレンジできる人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にいろいろ聞き把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の様子、夜間の様子バイタル、食事・水分摂取、排泄、睡眠などチェック表に記入しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意思を尊重し、職員の意見も取り入れ、本人のやりたいこと・好きなことを取り入れ、より良く暮らせるよう介護計画を作成しています	モニタリング実践記録表にADLの項目があり、月1回アセスメントがおこなわれている。3ヶ月毎に職員で話し合った内容がモニタリング会議録に記載され、それを基に計画作成担当者がプラン化している。プランはケアマネージャーと管理者が最終チェックをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別チェック表などに記入しています 気づいたことはカンファレンスを行い見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば要望に応じ対応しています。 家族の入院している病院への見舞い・他施設にいる友人の面会などしたことがあります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア訪問による歌、踊り、習字、自治会の方と一緒にのグランドゴルフ、神社の祭り(事前の草取り)に参加しています。市の移動図書館の活用もしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医へ受診したり往診を受けています。受診が必要な時は家族と協力して適切な医療を受けられるよう支援しています。	2つの協力医があり、月1回の往診がある。受診はほぼ月1回で不定期となっているが、訪問看護が週2回来訪して、医療連携体制が整っている。また、緊急時に持ち出す情報も「医療看護相談記録」に挟み込まれていて、すみやかに取り出せるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡を密にしてその都度助言を受け健康管理を行っています。かかりつけ医院の看護師の支援も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が時々お見舞いに行き、その際病状などの情報収集をし、退院に向けた支援をしています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と医師と相談し、チームでできるだけ支援し、それ以上支援不可能な時は、再度家族や医師と相談し検討していくようにしている	2つの協力医のうち1ヶ所からは看取り対応はできないと言われており、また職員体制からみても看取りに取り組むのは難しいと考えている。医療行為が必要になった場合は、病院などほか施設への手続きを支援していて、家族にも事業所の考えを理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が迅速に対応できるよう対応マニュアルを見える所に貼ってあります。必要に応じて他ユニットの職員も協力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災グッズをいつでも使用できるよう用意してあります。年3回の防災訓練を実施し、一カ月に一回を目標に防災訓練をしています。消防署や地域の方の協力も受けています。	平成22年度の外部評価の目標であった地域の皆さんの参加が叶っていて、消防署の指導の下行えている。また、利用者職員のみで取り組む訓練は毎月おこなうようにしており、繰り返しおこなうことで身近なものになっている。	テレビなど大きな家具を固定するなど、落下物対応に取り組むことを期待する。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い間暮らしてきた利用者のその人らしい日々の過ごし方を尊重し、声掛けし接しています。	自治会長を長年やっていた利用者にユニット内では「自治会長」と呼びかけるなど、本人がして欲しいことは工夫して取り組んでいる。また、利用者の前で業務連絡は極力避けていて、どうしても必要な場合は隠語を使ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるよう常日頃から声掛けするよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を心がけ本人の希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時一緒に用意をし、着たい服を選んでいただいています。衣類など一緒に買いに行っています。希望の美容院に出掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	希望の献立を聞き参考にしています。その方の特性に合わせ、準備や片づけを一緒に行っています。	職員が手作りし、食事と一緒にっており、和やかな雰囲気の中で食事ができている。食べたいものを尋ねると答えが返ってくる人ばかりなので、利用者意見を取り入れたメニューづくりができている。おはぎなど季節の行事食は利用者も参加してつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分が確実に摂取できるよう声掛けしています。その方の状態に合わせお粥にしたり、副食を刻んだりしています。摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし義歯の洗浄やうがいをし、口腔内を清潔にしています。自分でうまくできない方は見守りをし介助もしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して排泄パターンの把握に努めています 日中はなるべくトイレで排泄できるよう支援しています	チェックシートをつけていて、自立の利用者も記録に協力してくれる。パルーン使用の1名のみオムツをつけているが、ほかは紙パン・布パンである。「なるべくトイレで」という方針のもと、職員は利用者をよくみるよう努め、声掛けによる誘導をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後お茶や牛乳を飲んでいただいたり、日常的に水分を摂取できるようにし、おやつにはバナナ、さつまいもなども摂取していただいで予防に努めています。また主治医と相談して下剤を処方していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴があり、体調に合わせて入浴していただいています	3つのユニットのうちいずれかで必ず毎日湯をはっていて、入りたい人は毎日入浴できる。ただし、時間帯は職員人数が多い午後に限られ、安全を確保している。歌を唄ったり、職員と会話をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んで頂いたり、寝る時間も状況に合わせています 布団干しもし、気持ちよく眠れるように努めています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬しないために準備の時予薬前予薬時ノ3回確認しています。予薬時は日付名前を再確認しながら行っています。利用者の薬を薬管理表に記入して把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った役割(食材の盛り付け、味見、食材切りなど)楽しみごと(花札、カルタ、折り紙、ぬりえ、歌など)していただき、張り合いや楽しみのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により車で買い物、ドライブに出かけたり、散歩など支援しています	散歩やドライブは日常的にあり、また時折近所の喫茶店に皆で出掛けしている。消耗品の買い出しなど職員が外出する時は「一緒に出掛けませんか」と声掛けすることになっていて、利用者の外出機会を増やしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遺書に買い物に出掛けできる方にはご自分で品選びから支払いまでしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけていただいています 手紙も出しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を飾ったり、ポスターや行事の時の写真を貼ったり、季節の感じられる本を借りたりしています	畳の部屋にテレビがあり、食事をするテーブルと椅子が在る部屋と空間が明確に分かれていることに特徴がある。食事をする場所とくつろぐ場所がそれぞれあることで、利用者が目的をもって移動しているように受け止められた。コンタクトポイントを意識して清掃していることが視われ、5Sも浸透している。観葉植物が置かれ、生活を楽しむことにも配慮が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でテレビを見ながら気の合った人と話したり、食堂で話をしながら好きなことをしたり、時には部屋で一人で過ごしたり、好きな場所ですごされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物、使用していた物など居室に置き、以前と似た環境にして心地の良い空間になるよう配慮しています	パソコンやオーディオ機器を楽しんでいることが視えたり、趣味のものがおかれていたりなどして、思い思いの部屋づくりができていることを視認した。居室は過ごしやすそうな印象であるが、大半の利用者が共用空間で皆と一緒に時間を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事や分かる事はなるべく自分で頂き、わからないことは職員が声掛けし一緒にすることや行動することで、混乱や失敗を防げるように支援しています		